

令和7年度

自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	5809	学校名	飛騨高山高等学校（定時制）
------	------	-----	---------------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制高校として 個別支援に重点を置いたきめ細かな教育活動を通して 社会において自走できる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	【教育方針】「快活」「友愛」「創造」のもと、あらゆる機会を捉えて『自走できる生徒』を育成するとともに、価値観の多様性を認めて『互いを尊重できる生徒』を育成する。 【教育目標】①自らキャリアデザインを描き、主体的に行動できる力を養う。 ②自他の考えを尊重し、適切な人間関係を構築できる力を養う。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、意見を交流しながら、自らの役割と責任感を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために、地域や社会の構成員として貢献できる生徒	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」・「探究的な学び」の推進 ・ICTを積極活用した教科指導・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 ・生徒の個性や長所、自己肯定感を伸長するためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・過去にとらわれず、再挑戦する意思をもち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲をもつ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事などに自主的、主体的に参加し、より良い学校や人間関係を築いていく意欲のある生徒	

学校の抱える課題	・小中学校、前籍校で不登校傾向であった生徒や、様々な困り感のある生徒の受け皿として、地域にはなくてはならない高校の役割を果たさなければならない。 ・生徒の多様化に応じて、令和の日本型教育や次期学習指導要領の方向性を見据えた夜間定時制の教育課程のあり方を検証する必要がある。
----------	---

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	◇基礎基本を大切に、社会人として必要な一般教養を身に付けさせます。 ◇主体的な学びへとつながる「分かる授業」を推進するとともに、個に応じた支援を充実させます。
	生徒指導	◇あらゆる学習活動及び特別活動を通して、生徒の主体性を育み、自己肯定感を高めるように努めます。 ◇自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築かせるとともに、社会性の育成に努めます。
	進路指導	◇望ましい勤労観・職業観を身に付けさせて、社会的自立を促します。 ◇能力・適正及び多様な可能性を理解させて、卒業後の進路実現を目指します。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	① プリント教材や視覚的に訴える教材を活用し、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりに努めます。	施策Ⅱ-8	❶ 生徒及び保護者を対象とするアンケート ❷ 生徒による授業評価アンケート ❸ 定期考査ごとの各科目の平均点及び得点分布	① 誰にとってもわかりやすい授業プリントの作成や、ICTの活用に努め、生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを目指した。	B	○教科の裁量で宿題等の課題を課すことができるようにし、生徒の基礎学力の定着を図ることができた。生徒及び保護者を対象とするアンケートではすべての質問項目において85%以上が肯定的意見を返した。 ▲生徒による授業評価アンケートによれば、授業のわかりやすさについて生徒から意見が出ている部分がある。教員同士で授業見学をするなど、アンケートの結果とともに、教員も授業改善を意識するようにしていきたい。	
	② 対話を大切にした主体的な学びを推進するとともに、授業規律の確立に努めます。	施策Ⅱ-8		②「授業のルールとマナー」を示し、生徒との対話を大切にしながら主体的な学びを実現できるように努めた。			
	③ 習熟度別分割授業やティームティーチングを取り入れ、特別支援教育支援員とも連携して、個別の支援を重視した授業実践に努めます。	施策Ⅳ-23		③ほとんどの教科・科目でティームティーチングや習熟度別授業のいずれかを行い、個別の支援を重視しその充実に努めた。			
生徒指導	① 全職員による多面的な生徒理解に努め、個性を尊重するとともに、各種講話や授業を通じて規範意識の向上を促します。	施策Ⅰ-1	❶ 生徒及び保護者を対象とするアンケート ❷ 学校行事・生徒会活動の振り返り・部活動加入者数及び活動状況・大会成績 ❸ いじめ実態調査等による状況観察	①各種懇談（年5回）、学校生活アンケート（年4回）、心のアンケート（年4回）、いじめアンケート（年3回）を実施し、生徒の実態把握に努めた。また、外部講師による講話として「情報モラル」「SOSの出し方講座」「命の授業」「薬物乱用防止講話」を実施した。	B	○「いじめゼロ」ではなく、「いじめ見逃しゼロ」を掲げ、積極的にいじめを認知することで、被害者はもちろん加害者にも寄り添いながら対応することができた。 ○生徒を対象とするアンケートでは、「先生は、悩みや相談ごとに親身になって対応してくれる」という項目に関して、肯定意見が100%の回答となった。	B
	② 学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が主体的に活動できる場の提供に努めます。	施策Ⅰ-5		②学校行事で生徒が関わる機会の増加、部活動・同好会活動の活発化を図った。部活動加入者数は前年度より新入生を中心に増加し、生徒の主体的な活動を支援することができた。			
	③ すべての教師があらゆる機会から生徒一人一人を理解し、生徒の日常の僅かな変化を捉え、積極的な教育相談に努めるとともに、いじめの早期発見・早期対応につなげます。	施策Ⅰ-3		③いじめの早期発見・早期対応に努め、いじめに関するアンケート、心のアンケート、学校生活アンケートを活用した。また、スクールカウンセラーやソーシャルスクールワーカー等外部機関と連携し生徒の不安や悩みに対応した。いじめ認知件数が昨年度の1件から5件に増加したものの、積極的な認知によって、その後の見守りも行うことができた。		▲部活動が活発に行われるようになったことで、活動費が増加している。来年度は部費を徴収し、活動環境を整備する必要がある。 ▲いじめや喫煙、深夜徘徊など生徒指導上の問題行動が目立った。	
進路指導	① 発達段階に応じて外部講師や地域人材を活用した進路ガイダンスを実施するとともに、関係機関と連携して在学中の就労を支援します。	施策Ⅱ-13	❶ 生徒及び保護者を対象とするアンケート・各種講話の振り返り ❷ 進路希望調査、就労調査 ❸ 進路先決定状況	①進路説明会、進路講話（外部講師）、年金セミナー（外部講師）、企業見学、ハローワーク見学会（外部講師）、身だしなみセミナー（外部講師）、困った時の相談先を知ろう（外部講師）を実施し、所期の目標を概ね達成できた。	B	○各事業で講師や企業の選定・依頼に尽力した甲斐があり、好評だった。今後も、卒業生や卒業生が勤める企業とその経営者など、地域の企業と人材に関する情報収集に努めたい。	
	② 育友会や教育振興会と連携を図り、職場訪問・インターンシップ等を通じて就労の意義を理解させ、社会的自立を促します。	施策Ⅳ-20		②就労・運転免許取得状況及び進路希望調査（全学年対象）を春・秋の年2回実施した。所期の目標を概ね達成できた。		○就業状況の調査では、勤務している曜日や時間帯、時給なども調査項目に含め、生徒が置かれている実際の労働環境の正確な把握に努めた。生徒保護の観点から、今後も丁寧な情報収集に努めたい。	
	③ 三者懇談や個別面談等を通じて自己の能力・適性や可能性を確認するとともに、適時に進路情報を提供します。	施策Ⅱ-13		③卒業予定13名中、就職希望者5名、就職先内定者4名、就職先未定者1名。進学希望者8名、進学先内定者6名、進学先未定者（現在受験中）2名。		▲就職希望生徒5名の中の1名が、1社目の受験（学科試験有り）で内定を得ることができなかった。教務や各教科と連携し、学力を向上させる方策を検討・実施したい。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月15日

学校関係者評価

実施日：令和8年1月30日

・基礎学力の定着のために、教科の裁量で宿題等の課題を課すことができるようにしたが、今後も生徒の負担にならない範囲で課し、高校卒業後に生かせる基礎学力を高校生活の中で身につけることができるようにしたい。また、さらなる基礎力の定着を図るために学校設定科目の立ち上げなどを検討し生徒がより一層基礎学力を定着できるようにしていきたい。

・多様な課題を抱える生徒に対応した教育相談が行えるよう、すべての教師が生徒一人一人を理解し、あらゆる機会を通じて日常の僅かな変化を捉えて積極的な教育相談を行うとともに外部機関と積極的に連携を図り、専門的知識に基づいた支援を行っていきたい。

・外部団体から講師を招いて実施してきた事業「困った時の相談先を知ろう」について、中学校までに半数以上の生徒がその存在について既に知っていること、就業支援については、ハローワーク高山からワンストップで各支援機関へ連絡・連携していただけること、本事業の内容が別の事業「演劇ワークショップ」と重複すること、校内での支援体制（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）が整っていることなどから、次年度以降の事業を廃止した上で、生徒に有意義な進路支援に力を注ぎたい。

・本校定時制は様々な家庭環境や精神的な課題を抱える生徒たちの受け皿であり、飛騨地区唯一の定時制高校としてなくてはならない存在である。先生方のきめ細かな支援に保護者として大変感謝している。また、いじめ等の生徒支援についても、生徒一人一人に対して先生方が親身に寄り添ったサポートをしていただいている。

・ここ数年、入学者数（新入生や転入生）が増加する中、先生方には一人一人への支援に負担をかけているが、今の方向性を継続していただければありがたい。

・今年度途中までは、（働きながら学ぶ生徒への配慮から）授業以外で課題（宿題）を課すことを控えていたが、基礎学力担保のために課題を課すことができるように変更したことについては、保護者として大変ありがたいことである。

・定時制の生徒にとって地域社会と関わる学びは、昼間の就業の様々な年齢の方々と関わることで得られることが多い。

・以前より部活動等が活発になったことで活動費不足の課題が出てきているが、地域社会と関わりながら自分たちで経営したり、クラウドファンディングなどを活用することで、生徒たちが主体的に活躍できる環境を作って欲しい。